

諸関係を考える必要があるのではないかと考えたことを考えさせられました。

東大時代台湾の留学生の面倒をみたことがあります。この人々が日本占領前の動きを研究しました。一人は日本占領下のいわゆる地租改正を研究したのですが、それらを見て行くと同じ帝国主義者の一員に遅れて加わった日本と西欧の帝国主義諸国の手にした植民地の性格が全く違うという感じを持つのです。清国時代の植民地への対応の仕方はその中でいわば日本の地租改正と同じことをやろうとしているのです。大体台湾には三段階の土地関係者があって、大租権者、小租権者、その下に佃戸というのがあって、開墾権を政府から認められた人々が大租権者になるわけです。この大租権者の所有権を否定して小租権者を土地所有者として認め、その下に地主小作関係として佃戸の独立性を認めるという政策をとる。清国治下の時には大租権者の抵抗で、改革は成功しなかったけれども日本はそれに成功した。とも角小農生産の一定の発展の下に地主小作関係が展開して来るだけの生産力の高さに到達しているのです。日本が占領し植民地として支配した期間において、もともとの生産力を徹底的には破壊していないわけです。甘蔗の奨励といったことで甘蔗の強制栽培を受けたところは一定の影響を受けていますがしかしそれにしても全体として日本の政府へ台湾の土地所有者の納める地租は生産力に対して低い、本国における地租負担率よりも低い状態であった。そのため、植民地時代にも台湾本島人の蓄積が増大するだけの余裕のある植民地であった。ところが朝鮮もそうだし、北ベトナムの話も聞いていて、ベトナムも北は同じような小農地帯で、一定の発展が植民地時代にもあったのではないかと。プランテーションによる大規模農業の下に小生産者としての発展を抑圧されたメコンデルタとは違うのではないかと考えているのです。そう考える理由は政治的構造、旅行した人の印象だけを聞いていてそういった小農段階を経て国民国家的民族結合への芽が出て来るのではないかと思います。

メキシコ観光旅行の印象、セミナーの雰囲気を通じて、過去の生産のなかでえた断片的な知識が動きだし、多民族国家、旧植民地だった新興独立国の複雑な問題を考えさせられたのが、国際学会へ出てみての最大の獲物だったというわけです。

〔所 報〕

- 1976年度第6回事務局会議 9月16日(木)午後1時30分～4時 神田校舎・社研分室 出席者9名 議事 I.報告 II.議題 1.研究会のプランについて 2.年報・月報の編集について 3.その他
- 第7回事務局会議 10月23日(土)午後1時～4時 神田校舎・社研分室 出席者8名 議事 I.報告 II.議題 1.研究会の実施計画について 2.年報11号の編集及び12号の編集プランについて 3.社研人事について 4.その他
- 1976年度第2回運営委員会 11月6日(土)午前10時30分～12時30分 神田校舎・社研分室 出席者9名 議事 I.事務局報告 II.議題 1.第28回定例所員総会について(準備) 2.事務局女子職員人事について 3.その他
- 研究会 11月6日(土)午後1時～4時 神田校舎・8階C会議室 出席者18名
報告 小農と民族運動—アジア・北アフリカ人文科学会議に出席して— 古島敏雄所員
- 事務局編集会議 11月3日(土)午後1時～5時 神田校舎・社研分室～神田・学生会館(ロビー) 出席者3名 議題 年報12号の原稿募集要領など
- 「産構研センター」・社研事務局合同合宿研究会 11月26日(金)・27日(土) 三浦ケープシャトー参加者13名 年報10号の刊行に伴う「産構研センター」の解散にあたり、研究活動・成果の検討・反省および残務整理などを主たるテーマとして行なわれたもの。
- 社研専任事務職員・竹内佐和子さん(1965年3月 明治学院大学卒)に12月1日付採用辞令。
- 第8回事務局会議 12月4日(土)午前10時30分～午後1時30分 神田校舎・社研分室 出席者9名 議事 I.報告 II.第28回定例所員総会の議事について III.その他 この日、社研専任事務職員

竹内佐和子さんが正式に事務局員に紹介され、これに伴ない5月以来社研事務を担当していただいた市川則子さんが12月11日で退職されることが報告された。

○ 第3回運営委員会 12月4日(土)午後2時～5時 神田校舎・社研分室 出席者14名 議事 I. 事務局報告 II. 第28回定例所員総会の議事について III. その他

○ 第28回定例所員総会 12月11日(土)午後2時～5時30分 神田校舎・12階A会議室 出席者25名 委任状26通(所員81名) 議事 資格確認 大友福夫所長挨拶 議長に所長を選出 I. 報告 1. 事務局一般報告(鍋島力也事務局長) (1)事務局員の構成 (2)専任職員の就任——竹内佐和子さんの紹介 (3)年報10号の刊行 (4)産構研センター幹事・編集委員の解任「産構研」決算報告など(西岡幸泰運営委員) (5)その他 2. 事務局各部報告 (1)研究会(森宏所員) (2)編集(池田博行所員 大西勝明所員 内田弘所員) (3)文献資料(泉武夫所員 矢吹満男所員) (4)財政・中間決算報告(水川侑所員) II. 議題 1. 昭和51年度予算組替案(水川侑・二瓶敏所員) 2. 昭和52年度事業計画案(骨子)(鍋島事務局長) (3)昭和52年度要求予算案(二瓶敏所員) 以上、いずれも若干の質疑応答の上承認・決定された。III. 所長、3部長、会計監査委員、事務局長の改選 まず、配布された1976年度専修大学社会科学研究所所員名簿(1976年6月19日確定 第3回運営委員会において確認された各所員の所属記入のもの)の確認を行ない、ついで改選の方法は選挙で行なうこと、および各投票に先だつてその都度推薦を行なうこととし、選挙管理委員に大西勝明、坂牧三郎、矢吹満男の3所員を選出。それぞれについて、その都度の推薦が行なわれ、投票の結果、第8期(1977～78年度)の所長に大友福夫現所長、第1部長に内田義彦現第1部長、第2部長に打田峻一現第2部長、第3部長に古島敏雄所員、会計監査委員に高橋七五三現会計監査委員、事務局長に二瓶敏現事務局財政担当が選出された。

なお、総会后「いろは寿司」で懇親＝慰労会が行なわれた。

○ 研究会 12月18日(土)午前10時30分～午後3時30分 生田校舎・社研本部 出席者18名

報告 1. 崩壊期の日本軍政——香港・1943～45—— 梅井義雄所員

報告 2. 国家総動員法成立裏面史 森下澄男所員

いずれの報告においても、興味深い資料等を用意していただき、当時の生々しいエピソードを交えて、崩壊期の断面を切り開いていただいた。なお、両報告は月報に掲載される予定。(事務局)

<編集後記>

「真実は、地におち、／道理は、欺瞞とされる、／徳は、いまや住むところなく、／憐憫は、追放され、／人に、慈悲の心なし。／貧欲の心にまどわされ、／慎重の心も、盲目となる。／世界は、正から悪へ、／真実から、気まぐれへと交替し、／ついには不動の心を欠く故に、／すべては失われてしまった」

という文章(梶井迪夫 チョーサーの世界 岩波新書 95ページ)を読んだが、今年ほど、あれこれと、世相の動きにあきれた年も珍らしい。

今年の最後の月報には、たまたま新宿駅でお眼にかかった古島敏雄所員から、今夏、メキシコで開かれた国際会議に参加された、と伺って、早速、社研の研究会でお話しねがい、それをここに転載した。

編集部の仕事をしていると、四六時中、何か良い原稿はないものか、と聞き耳をたてていることになり、語学の試験の監督をしている時のように、眼つきまで悪くなる思いがする。例年、とくに上半期は月報の原稿が大端境期を迎える傾向があるが、所員各位に多少とも原稿のサーヴィスを、と切にお願いしておきたい。(池田)

神奈川県川崎市多摩区生田4764 電話(044)911-8480(内線33)

専修大学社会科学研究所

(発行者) 大友福夫
